

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年 11月 1日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470203625		
法人名	医療法人 和同会		
事業所名	西広島グループホーム なごみの家		
所在地	広島県広島市西区田方二丁目16-45		
自己評価作成日	令和2年 6月 30日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=3470203625-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島県安芸郡海田町堀川町 1番8号
訪問調査日	令和2年 10月 30日（金）

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>①医療施設（病院・ホスピス）、福祉施設（老人保健施設、デイケア）複合施設内に併設された施設です。多職種での連携が取られ、看護体制や医療面での迅速な対応に、利用者様・家族様の安心安全な支えとなっています。</p> <p>②法人内外の研修に積極的に参加し又、認知症介護指導者・介護口腔ケア推進士・排泄ケアサポートチームメンバーがおり、他部署に対してもアドバイスをを行い、スタッフ間で学べる環境を整えています。</p> <p>③認知症介護指導者養成研修・認知症介護リーダー研修修了者により、認知症サポーター養成講座や認知症介護実践研修、小学校の道徳授業等に講師として参加するなど、地域への貢献にも力を入れています。</p> <p>④運営推進会議では、家族様や地域の方々と積極的に意見が語り合え、又事業所や町内会の年間行事を通して、利用者様・家族様や地域の方との交流の場となっています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>西広島グループホームなごみの家は、医療施設・福祉施設が併設されたグループホームで、高台にある建物の南側にリビング兼食堂や居室があり、利用者の皆さんは、周りの四季折々の風景を感じながら暮らされている。居間や廊下は広く、歩行訓練や車椅子の移動も楽々できる。法人理念である「常に利用者様とご家族の立場に立って医療・保健・福祉の分野で連携、充実を図り、地域のニーズに応えるよう職員一同頑張ります」を基に本年度グループホーム部署内目標「入居者様と共に楽しめる環境を創る」を立て、共に笑顔で楽しいと感じられる環境を目指されている。常に職員は、認知症ケア技術を高め、利用者一人ひとりの個別ケアを実施出来るよう努める。そして、ホーム長中心に働きやすい職場環境作りを心掛けておられるホームです。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	“常に利用者様とご家族の立場に立って考え行動し医療・保健・福祉の分野で連携充実を図り、地域のニーズに応えるよう職員一同頑張ります”という事業所理念に則り、毎年度の部署内目標を設定している。職員はその目標に沿ったケアの実践に努めている。	基本理念を基にした職員心得を常に携帯し、グループホーム自体の年度目標「入居者様と共に楽しめる環境を創る」を掲げ、朝礼時に唱和し、実践に繋げている。又、会議等においても、話をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会議と町内行事に参加している。又、地域の方が事業所の行事に参加されたりと、地域の方との交流を行っている。地域の夏祭りには看護師が救護班として参加している。	殆どの町内会に加入している。職員は、町内会議に参加して、意見交換をして地域の方と交流している。コロナ禍においては、町内行事は、殆ど中止となっており、交流出来ていない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症介護指導者研修を修了したスタッフや、認知症アドバイザー登録したスタッフがあり、地域の研修や小学校からの道徳授業等の依頼があれば積極的に活動している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議では行事報告や事故報告、または現状を報告し、意見交換している。そこでの意見をミーティング・連絡ノート等でスタッフ全員に検討・周知し、サービスの向上に努めている。また内容によっては施設内の担当部署や委員会等に相談し、検討している。	定期的に運営推進会議は、開催しているが、現在は、行政指導により書面にて地域包括支援センターや家族全員等に送り、意見交換を行い、サービスの質の向上に活かしている。今後、少人数での開催を検討している。	地域にグループホームをもっと理解して頂けるよう運営推進会議の参加者を広げる為にも多方面にご案内を出して、特にサーチコール訓練を実施していく計画をされている旨、警察署の参加を積極的に取り組んで行かれることを期待します。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括支援センターや西区の職員に運営推進会議や事業所内の行事に参加を促している。制度等で不明な事は市や県の担当者の方に相談している。また骨折事故等の発生時には早急に市へ事故発生報告書を提出し、改善策を実践している。	地域包括支援センターと主に交流し、情報を共有したり、電話等で質問に応じて貰ったりと協力関係を築くよう取り組んでいる。広島市、介護保険課に質問や相談することもある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束ゼロに向け担当委員が研修を行うなどスタッフ一丸で取り組んでおり、現在身体拘束を行っている方はいない。また、原則日中は玄関を施錠せず、自由に出入りできるようにしている。	身体拘束をしないケアについて、3ヶ月に1回、話し合っており、虐待防止・身体拘束廃止委員会は、事例検討等を通して、毎月1回、開催している。センサーマットやてんとう虫は、今後の検討課題である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止・身体拘束廃止委員が中心に、院内・院外の研修に参加し、その内容をもとに部署内研修を行うなど、スタッフ全員の意識を高めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在、法定後見制度や任意後見制度を利用されている方が居られる。成年後見制度の部署内研修を行い、制度や内容の理解を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には契約書並びに重要事項説明書で詳しく説明している。内容の改定等あれば、運営推進会議で報告し、疑問・質問有ればその都度説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議や面会時、または年1回の満足度アンケートなどで意見・要望を聞き、検討・改善している。また、日常生活から聞こえてくる利用者の意見も拾い上げ運営につなげている。	運営推進会議の内容を発信したり、概ね3ヶ月に1回、発行される「なごみ新聞」を送ったり、日頃の様子を伝える中で、家族からも要望や意見等を伺っている。(カラオケやDVDを流してほしい・満足度アンケートの返答等)	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	チーフ・サブリーダーを配置し、スタッフからの意見を聞きやすくしている。またホーム長は年1回以上個人面談を行い意見交換をし、随時ミーティングを開催し反映させている。	ミーティングや定期面談を行ったり、日頃の業務の中で、チーフ・サブリーダーに相談や助言を貰い、介護技術を高めたり、働きやすい環境作りをしている。(レクや行事の企画等)	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	得意分野や興味のある内容の委員や係を役割とし、やりがいを持って働けるように務めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	スタッフのケアの力量や担当する委員会に応じた研修情報を提供し、参加の促しや勤務調整を行っている。新人・中途採用者にプリセプター制度を利用し、法人内でスタッフの育成研修を企画している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	外部の研修に参加し、同業者と情報交換等を図ることで、グループホームの抱える問題に対し、解決策等の意見交換を行っている。また、認知症リーダー研修他施設実習受け入れ他施設のリーダーとも意見交換を行った。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	初回カンファレンスまでに、本人の不安や要望などを傾聴し、アセスメントを10しつかり行い本人の生活観を大切にしながら安心して過ごせるケアプランの立案に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	相談の段階からサービス利用開始後も疑問点や要望等があれば気軽に問い合わせを頂けるよう配慮している。またスタッフからも積極的にコミュニケーションを図り、意見等を聞けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	事前の情報や聴き取りで、本人と家族が要望している支援を共有し、今必要としている支援やサービスを検討し実施する様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	食事の準備や片付け、掃除や洗濯干しなど、本人の力が発揮できるような役割を持って頂くことで、共に暮らす関係であるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族にも行事や会議、避難訓練やカンファレンスなどへの参加・協力を促し、共に考え、楽しみ合える関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族との食事や同窓会などの希望時は、外出・外泊が出来るよう支援している。また携帯電話を所持し家族との連絡を自由にされている方もいる。2020年度はオンライン面会(TV電話)の実施を支援している。	携帯電話やタブレットを持っておられる方や本人・家族の希望で、県内外の墓参りに出掛けたり、現在は、面会の規制があるが、テレビ電話等で、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係を把握し、スタッフが会話を取り持つことで、利用者同士の関係性が向上するよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了した後も家族様に様子を伺ったり、移り住む先の関係者に対しても、これまでのケアの工夫、本人の習慣や好みなどの情報を伝えるよう努めている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	洗濯物は自分の部屋に干したい、買い物を楽しみたいなどの希望や意向を叶えるよう検討・実施している。	これまでの生活リズムを聞きながら、ひもときシートに記入している。ご本人の意向も聞いて検討し、出来る限り思いが叶うよう支援している。(外気浴したい・スケッチ、ぬり絵がしたい・家事手伝い等)	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントの際は、生活暦や生活環境などを、センター方式などを使用し情報収集に努めている。		
25		一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	本人本位のケアを導く為に、日々の介護記録や、心身の情報、本人自らの力がどれ位あるかなどスタッフ全員でアセスメントシートに記入をするなど現状を把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	概ね6か月に一度行うカンファレンスには、本人・家族・主治医・看護師・ケア担当者・計画作成担当者・ケアマネ等が参加し、個々の意見を反映した介護計画を作成している。	介護計画の見直しは、通常6ヶ月としている。変化のあった時には、その都度見直しを行っている。プランの作成は、サービス担当者会議を開き、本人・家族・主治医・看護師・ケア担当者・計画作成担当者・ケアマネ等が、意見交換し、本人本位の介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録への記載時は、ケアプランに添った記録と共に本人の言動やケアのヒントになりうる本人の反応、スタッフの対応などを記入し、職員間で情報を共有している。介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	訪問歯科診療や訪問マッサージ・出張美容など事業所外のサービスの希望があれば利用して頂いている。訪問介護サービスを利用し、外出支援を受けておられる方もおられる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	警察署又は消防署の方に運営推進会議や防災訓練等に参加していただいている。また、地域の行事へ参加し、交流を楽しんでもらえるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	現在、ほとんどの利用者の主治医は併設医療機関の医師であるが、本人・家族の意向で希望のかかりつけ医に主治医を持つ方もおられる。また、必要に応じて、眼科など外部のかかりつけ医に受診出来るよう柔軟に対応している。	併設医療機関の医師による健康相談やリハビリ相談を気軽に受けることが出来、適切な医療や健康管理が行われている。又、3人の協力歯科医の先生が、歯科治療や口腔ケアの指導を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	利用者の日常とは違う状態の気付きや異常がある時には、速やかに併設医療機関の看護師または医師に相談・報告し、適切な対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院となった際、病院関係者との情報交換や退院後のリハビリなどについて密に連携を取っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居の際に「急変時および終末期医療に対する確認」を本人・家族に伺っている。看取りに入った場合には、「おだやかな看取り介護のために」の冊子による説明を行い、家族が安心してご本人が旅立たれるまでの準備や寄添う事をチームで支援するよう取り組んでいる。	契約時に「終末期医療に対する確認」を伺い、説明をしている。本人が、重度化した時、意向の変更があるかどうかを聞いて、看取りに入った場合、「大切な人への寄り添い方等」を家族に説明しながら、チームで共有し支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	院内や部署内研修にて、急変時の対応やAEDでの応急処置の訓練を年に1回行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	毎年度、部署内または法人全体の防災訓練を実施しており、消防署や町内会、全部署の職員へ参加を促している。また消火器の位置確認や避難経路・設備に関する確認を行っている。	年2回の消防訓練を夜間想定も含め、実施している。初期消火訓練・避難誘導等、外部からの協力体制もあり、職員で確認して備えている。今後も土砂災害を含む避難訓練を行う予定がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者に対しては敬いの気持ちを持って丁寧語で対応している。また個人情報や倫理・高齢者人権・接遇等の研修について毎年スタッフ全員が受講している。	年1回、接遇・個人情報保護の研修を行い、プライバシーに関する研修・対人の挨拶等も含め、職員全員が、受講している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	何事も本人への意思確認を必ず行い、意思表示が難しい利用者様に対しては、表情から思いを汲み取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	出来る限り利用者様の個々のペースで希望に添うように、また身体の状態を観察しながら過ごして頂く様支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	出張理美容があり、カット・カラー・パーマ等を利用されている方が多い。スキンケア用品を準備し支援が必要な時には援助している。毎日化粧をし、身だしなみを整えておられる方も複数おられる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事作りは外注業者に依頼しているが、可能な限り利用者様と一緒に配膳準備や食事の後片付けを行っている。食事メニューを大きく掲示したり、定期的におやつレクを実施し、楽しみが持てるようにしている。	食事は、外注業者に委託しているが、ご飯と味噌汁は、ホームで、作っている。利用者も配膳したり、盆拭き・テーブル拭き・後片付け出来る方は、職員と一緒に手伝っている。おやつレクも楽しみながらホットプレートで作られている写真が、微笑ましい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	日課表にて食事量・水分量をチェックし、個々の嚥下や健康状態に応じて食事形態を調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	訪問歯科医師に相談しながら一人ひとりに応じた口腔ケアを行っている。歯科衛生士による定期的な訪問口腔ケアを受けている方も多数おられる。口腔衛生管理体制加算も算定している。介護口腔ケア推進士の資格を取得したスタッフが在籍し、法人内で他部署と連携しながら委員会メンバーとして活動している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄ケアサポートチームメンバーを中心に、排泄に関する研修やラウンド等を活かして、出来るだけトイレで排泄出来るよう一人ひとりに合った排泄パターンを考え支援している。	月1回、排泄ケアサポートチームメンバーが中心になり、介護用のオムツやスキンケアの指導を行い、排泄自立支援に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取を心がけ、身体を動かす支援も行い、なるべく自然排便出来るように取り組んでいる。排便状況によって飲み物の工夫を行ったり、下剤で調整も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	予定として入浴日・時間を設定しているが、個々の心境や体調に合わせて変更する等、調整している。また季節の湯(菖蒲湯)も行っている。	入浴は、週2回としているが、本人の希望に添えるよう努めている。座位が保てない方は、2人体制で、簡易型ストレッチャーにて、安心して浴槽に入ってもらっている。風呂嫌いな方も居られ、声掛けの工夫や時間を置いたりして配慮され、入浴の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個人の生活習慣やその時の体調や気分に合わせて休息して頂けるように工夫している。また、夜間安眠出来るよう、日中の覚醒も促している。冬季は湯たんぽを準備するなど支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方された薬の用法、用量等の把握に努め、服用前には必ず名前・日時を復唱し内服確認も行っている。薬の変更がある時は状態観察を行い、医師へ報告、調整してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者一人ひとりの性格や生活層等を考慮し日々の生活の中で役割や楽しみを支援するようにしている。外気浴での気分転換や、好みの飲み物を提供したり、囲碁を楽しまれている方もいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	利用者の体調や天候・気候に合わせて、屋上での外気浴をおこなったり花壇や畑の手入れを楽しむ事がある。家族同行で小旅行されたり、県外の親戚の家に新幹線等を利用して家族の協力のもと旅行された方もいる。	コロナ禍で、不要不急の外出は、控えているが、受診や屋上での外気浴をしている。屋上で、園芸作業や芋掘りを行い、野菜の収穫も兼ね楽しみにしておられる。今年は、近所の花見に出掛け、季節を楽しんだ。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	施設内売店で必要物品等の購入が可能となっており、本人や家族の希望に応じて買い物出来るようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望時には利用者と家族が電話で話せるよう支援している。個人の携帯電話を所持されている方も居り、必要に応じてメール作成、送信の支援も行っている。感染対策で面会が難しい県外の家族とはオンラインでの面会(TV電話)支援を実施した。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に合った飾り付けをしたり植物を置いている。希望の方は月に2回華道クラブで利用者様が生けた季節の花を居室に飾っている。食事にはBGMを流すなどしている。	対面式のキッチンからは、野菜を刻む音やご飯の炊ける匂いが広がり、家庭的な雰囲気の中で、会話も弾む。明るく広いリビングは、鉢植えに水をやったり、自由に車椅子で移動して、自分のお気に入りの場所がある。毎月、壁画を貼りかえられ、特に換気にも配慮され、居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下や食堂、玄関の空間に椅子やソファ、机を設置し自由に利用してもらえるようにしている。(食事の空間と団楽の空間を分けている)		

西広島グループホーム なごみの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	できるだけ使い慣れた家具や見慣れた物を使用することで、居心地が良かつ安全に過ごしてもらえるようにしている。仏壇を部屋に置いている方もおられる。	居室には、今まで馴染みのある物を持ち込まれ、ドレッサー・箆笥・テレビ・椅子・大きな時計・カレンダー・仏壇・アルバム・人形・家族写真等、利用者にあった部屋の配置や飾り付けがしてあり、本人が、居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内には段差がほとんど無く、廊下や食堂などの共有場所には十分なスペースが確保されている。居室内は安全に配慮しながら、一人ひとりの能力に合わせた家具配置にし、自立した生活が送れるように支援している。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 西広島グループホームなごみの家

作成日 令和2年10月31日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議に地域の方は町内副会長、、地域包括支援センタースタッフのみ毎回参加されている。	警察署の方に参加してもらう。	会議の案内状を出す。 (警察署と合同のサーチコール訓練を企画し、同日の会議への参加を促す)	1年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。